

# 全日本鍼灸学会雑誌投稿規定

(平成 25 年 8 月 1 日改定)

## I. 編集方針について

1. 本誌は、鍼灸ならびに鍼灸関連領域のオリジナル論文で、他誌に未発表のもの、掲載予定でないもの、あるいは現在投稿中でないものを掲載する。
2. 論文の種類は、原著、報告、短報、臨床体験レポート、編集者への手紙、総説、解説などとする。

## II. 著作権

掲載論文の印刷、刊行、図表の引用および転載に関する許可の権限は全日本鍼灸学会に所属する。掲載論文(日本語および英語要旨を含む)のデータベース化、二次的使用、転載および複製機器による電子的／光学的複製の許諾権は全日本鍼灸学会に委託されたものとする。また、これらによる使用料は全日本鍼灸学会に帰属する。

## III. 倫理規定

1. (1)ヒトを対象とした研究では、世界医師会のヘルシンキ宣言の中で述べられているように、科学的および倫理的規範に準拠していなければならない。被験者には研究内容についてあらかじめ十分に説明し、自由意志に基づき文書により同意を得る。所属機関の倫理委員会またはこれに準拠したものの承認が必要である。  
(2)臨床試験論文を投稿する場合、試験開始前にその臨床試験情報を公的な「臨床試験登録機関」(UMIN 臨床試験登録システム等)に登録されていることが必要である。なお、臨床試験とは、研究対象者を介入群と比較群とに前向きに割り付けて行う研究プロジェクトとする。
2. 動物を対象とした研究は、所属機関の長が承認したものでなければならない。実施にあたっては、動物愛護の立場から実験計画を立て、全実験期間を通じて適切な飼養管理や処置を行う必要がある。  
以上、該当する研究論文では、このことを本文の「方法」に記載するものとする。

## IV. 利益相反

臨床試験に関する論文は、利益相反関係(例:研究費・特許取得を含む企業との財政的關係、当該株式の保有、公的研究費に基づくかどうか等)の有無を本文の最後に明記すること。利益相反関係がある場合には、関係する企業・団体名も明記する。

注)利益相反に関する記載例

- ・ 本研究は〇〇〇〇の資金提供を受けた。
- ・ 〇〇〇〇の検討にあたっては、〇〇〇〇から測定装置の提供を受けた。
- ・ 利益相反はない。

## V. 投稿論文

### 1. 投稿資格

投稿者は本会正会員・賛助会員・名誉会員に限定する。共著の場合は、全員が会員(学生会員含め)であることを要する。ただし、論文作成に指導的な立場でかかわったと認められる者については、非会員共同執筆者申請書を提出の上、理事会の承認を経て非会員でも共著者と認める。

## 2. 誓約書・著作権委譲承諾書

- (1) 投稿論文が二重投稿でないこと、ならびに著作権を学会に委譲することを誓約した「誓約書・著作権委譲承諾書(毎巻末に綴じ込み)」に筆頭著者または代表者が署名・捺印の上、同封する。
- (2) 誓約書・著作権委譲承諾書の署名は一人であるが、共著者がある場合は、筆頭著者の署名をもって全員が承諾したものとする。

## 3. 掲載の決定方法

投稿論文は複数の専門家による査読を行い、編集委員会が掲載の採否および論文の種類を決定する。査読の結果、原稿の修正を求めることがある。掲載は、最終的に掲載の採否が決定した順とする。

## 4. カバーレターの添付

投稿の際には、投稿する研究論文や臨床報告の背景、意義などについて簡潔にまとめたカバーレターをつける。

## 5. 論文のまとめ方

論文のまとめ方については、

- (1) 緒言 (Introduction)
- (2) 対象と方法 (Material and Method)
- (3) 結果 (Result)
- (4) 考察 (Discussion)
- (5) 結論 (Conclusion)
- (6) 謝辞 (Acknowledgment)
- (7) 利益相反 (Conflict of interest)
- (8) 文献 (References)

の項目に基本的に従い、わかりやすくまとめる。

それぞれの項目の内容については、十分に意を尽くす必要があるが、臨床試験報告(特に、ランダム化比較試験)の場合は、CONSORT 声明 2010(日本語訳は、*Jpn Pharmacol Ther* (薬理と治療) 2010:38(11):939-47)、STRICTA(日本語訳は、*全日本鍼灸学会雑誌* 2013:63(3):186-204)に準拠すること。

統計学的手法は、報告された結果を検証できるよう、詳細に記述する。可能であれば、所見を定量化し、測定誤差または不確実性を表す適切な指標(信頼区間など)とともに提示する。 $P$ 値などは、エフェクト・サイズに関する重要な情報を与えないため、このような統計学的仮説検定のみに依拠することは避ける。使用したソフトウェアを明記する。

## 6. 原著、報告

- (1) 原稿は投稿規定に従い、体裁の整った完全なものでなければならない。
- (2) 執筆要項

### 1) 投稿の仕方

ワードプロセッサで印字されたものとする。A4サイズ用の紙で、1行の字数は 40 字、1頁の行数は 40 行として、1頁 1,600 字とする。また、各頁には頁番号をつける。

①1頁目に、日本語と英語で「論文タイトル・著者名・所属・所在地」を記載する。論文タイトル中には、略語、商品名等は用いない。

②2頁目以降に、論文タイトル(著者名・所属はここには書かない)・キーワード・日本語要旨・本文(V. 投稿規定の5(1)から(8))、ならびに、図表の説明・英語要旨(著者名・所属はここには書かない)を印字した原稿(元原稿1部、コピー2部)を編集部へ提出する。

③図表については、できるだけコンパクトなものとし、タイトルと簡潔な説明を別紙に英語または日本語で記載する(両者の混在は認めない)。原著論文では図表、その説明ともに英語で記載する。挿入位置は本文欄外に明示する。本文中に最初に引用された順番に図と表を別々に通し番号を付け、図の裏面にその番号と上下のしるしを付ける。カラー原稿の場合は3部提出する。

## 2) 字 数

原著の場合は、本文はV. 投稿規定の5(1)から(8)を含めて 9,000 字以内(スペースは含めない)、図表はあわせて8点以内(刷り上り8頁まで無料)とする。

報告の場合は、本文は文献を含めて 6,000 字以内、図表はあわせて6点以内(刷り上り6頁まで無料)とする。

## 3) キーワード

タイトル、要旨から5個以内で選定し、日本語と英語で論文タイトルの後に明記する。

## 4) 日本語要旨

800 字以内とし、論文タイトルと共に別紙に記載する(所属や著者名は記入しない)。要旨は、目的・対象と方法・結果・結論の順に項目立てをして簡潔にまとめる。ただし、臨床試験の場合は、目的、研究デザイン、セッティング、参加者、介入、主要なアウトカム評価項目、主な結果、結論の順にまとめる。

## 5) 英語要旨

論文タイトルは第 1 語の頭文字のみ大文字とする。要旨は 400 words 以内とし、論文タイトルと共に別紙に記載する。所属や著者名は記入しない。

文章の形式は、「構造化抄録」(structured abstract)形式とし、Objective・Material and Method・Result・Conclusion の順に記載する。structured abstract については、「青木仕. Structured abstract の有効性. 医学図書館 1995; 42(3): 317-24.」を参照すること。

英語要旨については、投稿前に native speaker による文章表現や字句の校閲を受け、その旨をカバーレターに記載する。

## 6) 文章表記

①原稿は横書きでひらがな、新かな遣いを用い、正確な句読点をつける。外国語、外国人名、地名、薬品名は原語のまま用いる。しかし、一般に日本語化している外国語は、カタカナを用いてもよい。数字は1桁の場合は全角、2桁以上は半角で表記する。

②度量衡の単位は、mm、cm、ml、dl、l、ng、 $\mu$ g、mg、g、kg などの国際単位系を用いる。年号は西暦で統一する。

③鍼の長さ、太さ、材質は、学会の規定に従って明記する。((社)全日本鍼灸学会. 医療用鍼の品質規格—毫鍼の鍼体径と鍼体長—. 全日鍼灸会誌. 1986;36(4):305-7. )

例) 銀鍼の寸3の3番→40 ミリ・20 号、銀鍼

④経穴名の表記・部位は、『WHO/WPRO 標準経穴部位—日本語公式版—』ならびに『WHO STANDARD ACUPUNCTURE POINT LOCATIONS IN THE WESTERN PACIFIC REGION』、ローマ字の表記は、『STANDARD ACUPUNCTURE NOMENCLATURE Second Edition』ならびに『標準経穴学』に準拠し、以下のように記載する。また、論文中の経穴部位が上記成書と異なる場合は、その旨を明記する。

例)

和文初出では、足三里(ST36)とし、以後は足三里

英文初出では、ST36(Zusanli, Ashi no Sanri) とし、以後は ST36

⑤数字の使い方;

数字の用い方は以下の順とする。

I. II. III. …

1. 2. 3. …

(1) (2) (3) …

1) 2) 3) …

① ② ③ …

⑥論文タイトルおよび要旨では日本語、英語にかかわらず略語を用いてはならない。

⑦論文中に繰り返し使用される語句については略語を用いてよいが、初出の時は必ず正式名称をスペルアウトして記載する。さらにカッコ内に略語を用いることを明記する。

例) 日常生活動作(activity of daily living; 以下 ADL と略記) …

⑧有意確率の表記は、大文字のイタリック体‘*P*’で表記する。有意差なし(not significant)を略記する場合は、‘n.s.’とする。

⑨文中の複数引用文献の記載方法については以下の通りとする。

連続した2文献の場合、上付き1/4で、例えば「……<sup>13,14)</sup>。」と表記する。

連続した3文献以上の場合、上付き1/4で、例えば「……<sup>13-16)</sup>。」と表記する。

連続した文献とそうでない文献が混在している場合、上付き1/4で、例えば「……<sup>13-15, 19)</sup>。」と表記する。

#### 7) 文献の記載の仕方

主要なもの20件以内とし、引用順に本文と引用文献の頭に通し番号を付して(欧文および和文共に)並べる。ただし、メーカーの発行する販売促進用雑誌からの引用は認めない。

文献の書式は、いわゆるバンクーバー・スタイル(the Vancouver style)に従うものとし、以下の例を参考に記載する。(バンクーバー・スタイルについての詳細は、International Committee of Medical Journal Editors. Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals. 1991. Feb;324(6):424-8. 参照)

##### ①論文・著者数;

文献のタイトルは、副題も含めてフルタイトルを記す。引用文献の著者や編集者は、6名まではすべて記載し、それ以上の場合は‘, ’をつけて「他」、または「et al.」とする。

##### ②雑誌;

著者名. 論文タイトル. 雑誌名(類以の誌名のあるときは発行地). 西暦発行年; 巻(号): 起始頁-最終頁(上の桁で繰り返す数字は省略し、その際は半角で表記)。ただし、巻数の記載を欠く雑誌を引用する場合には、巻数の代わりに通し号数または発行年月日を記載する。句読点や括弧は全て全角で表記する(例参照)。

例1) 山本太郎, 山田花子. 鍼灸臨床と今後の課題. 世界鍼灸学会雑誌. 1998;60(1):123-30.

例2) Yamamoto T, Yamada H. Effects of acupuncture therapy on chronic pain. J Jpn Soc Acupunct. 1986;35(3):21-8.

##### ③書籍;

著者名. 書名. 版数. 発行地. 発行所名. 西暦発行年: 起始頁-最終頁.

例) 山田太郎. 鍼灸の基礎と臨床. 第3版. 東京. 鍼灸科学社. 1999:34-46.

##### ④監修者、編者のある書籍;

例1) 山田花子. 鍼灸学概論. 田中一雄, 川口 修(編). 鍼灸大辞典. 東京. 鍼灸科学社. 2000:125-60.

例2) Yamamoto T, Yamada H. Effects of acupuncture therapy on chronic pain. In: Tanaka K (ed). Science of Acupuncture. Tokyo. East-Airt. 2000:1-10.

##### ⑤古文獻;

江戸期以前の図書については、原則として、編著者名. 書名. 成立年. 刊行年(もしくは抄写年). 発行者. 発

行地、および該当丁(葉)数(表・裏)あるいは、頁数もしくは項目名を記し、稀観本については所蔵者名も明記する。

例) 吉益東洞. 薬徴. 1828. 1980. 財団法人 漢方医学研究所. 東京:145-50.

⑥その他;

現代中国の文献の場合は、日本で使用されている漢字に直して記載する。

⑦引用を避けるもの;

抄録。私信。未刊行物。

ただし、受理はされているが、まだ、掲載されていない論文は、雑誌名を記して「印刷中」とする。

⑧雑誌名の略記;

雑誌名は原則略記とする。なお、詳細については、以下から検索可能である。

日本語雑誌の場合: 医学中央雑誌ホームページ上の収録誌検索 <http://www.jamas.gr.jp>

英語雑誌の場合: National Library of Medicine ホームページ上の Journal Browser

<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/jrbrowser.cgi>

8) 著者校正は1回のみとする。

9) 掲載後の原稿(図表を含む)は、原則として返却しない。

## 7. 短報

(1) 本欄は、研究および報告に限る。独創性の高い速報、もしくは、予報的な報告を目的とする。本欄に掲載された後に、同じ内容の原著は本誌では掲載しない。

(2) 査読を経て、編集委員会で採否を決める。

(3) 執筆要領は次の通りとする。

1) 本文・文献 3,000 字以内。図表はあわせて2点以内(刷り上り4頁まで無料)とする。

2) 論文タイトル・投稿者名・所属は、和英併記のこと。

3) 日本語要旨は 600 字以内、英語要旨は 300words 以内とする。

4) キーワードは3個以内で選定し、日本語と英語で別紙に明記する。

5) 他は原著に準じる。

## 8. 臨床体験レポート

(1) 本欄には、日々の鍼灸臨床の場での鍼灸の効果に対する評価を工夫しわかりやすくまとめたもの、あるいは鍼灸臨床上の貴重な体験や今後の臨床に活かされる内容の論文を掲載する。1 例報告でもよい。詳細な記載については、全日本鍼灸学会雑誌第 52 巻 3号・4号、第 53 巻 1 号に掲載された「症例報告の書き方」を参照のこと。本欄に掲載された後に、同じ内容の原著や症例報告は本誌では掲載しない。

(2) 査読を経て、編集委員会で採否を決める。

(3) 執筆要項は次の通りとする。

1) 本文・文献 6,000 字以内。図表はあわせて6点以内(刷り上り5頁まで無料)とする。

2) 論文タイトル・投稿者名・所属は、和英併記のこと。

3) 日本語要旨は 800 字以内。英語要旨は 400words 以内とする。

4) キーワードは5個以内で選定し、日本語と英語で明記する。

5) 他は原著に準じる。

## 9. 編集者への手紙

(1) 本欄は、日常の診察・研究活動上得られたヒント、発見、反省点、盲点など、また、本誌に掲載された論文に対する各種の意見(追加、討議、意見、希望など)を書簡形式で書いたものとする。

(2) 査読はないが、編集委員会で校閲を行い、採否を決める。

(3) 執筆要項は次の通りとする。

1) 2,000 字以内(刷り上り2頁まで無料)とし、写真・図表の使用は認めない。(文献を入れる場合は、本文の字数に含まれるものとする。)

2) タイトル・投稿者名・所属は、和英併記のこと。

3) 日本語要旨・英語要旨は不要である。

4) キーワードは3個以内で選定し、日本語と英語で明記する。

5) 他は原著に準じる。

## 10. 英文による投稿

本誌は日本語論文のみを掲載する。英文論文は、オンライン英文雑誌 Japanese Acupuncture and Moxibustion (JAM)で受け付けている。投稿規定は原則、全日本鍼灸学会雑誌と同様であるが、HP (<http://jsam.jp/>)で確認すること。

## VI. 依頼論文

### 1. 総説

(1) 本欄は鍼灸ならびに鍼灸関連の問題について、最近における内外の知見を総説的に記述したものとす。著者の原著報告であってはならない。ただし、著者の業績を中心に述べることは差しつかえない。

(2) 執筆要項は次の通りとする。

1) 本文・文献は 16,000 字以内、図表はあわせて8点以内(刷り上り 15 頁まで無料)とする。

2) 論文タイトル・投稿者名・所属は、和英併記のこと。

3) 日本語要旨は 800 字以内。英語要旨は 400words 以内とする。

4) 8個以内のキーワードを日本語と英語で選定すること。

5) 他は原著に準じる。

### 2. 解説

(1) 本欄は、鍼灸ならびに鍼灸関連領域の問題について、最近における内外の知見を解説的に、わかりやすく記述したものとす。

(2) 執筆要項は次の通りとする。

1) 本文・文献は 10,000 字以内、図表はあわせて4点以内(刷り上り 10 頁まで無料)とする。

2) タイトル・投稿者名・所属は、和英併記のこと。

3) 日本語要旨は 800 字以内、英語要旨は 400words 以内とする。

4) 8個以内のキーワードを日本語と英語で選定すること。

5) 他は原著に準じる。

### 3. 巻頭言

(1) 原則として理事等役員が執筆するが、その他は編集委員会で決定する。

(2) 学会のあり方・将来について等、学会の基本的な姿勢を提言する。

(3) 原則として、1,600 字(刷り上がり1頁)以内とする。

### 4. 紹介

(1) 図書や書籍の紹介

(2) 鍼灸学関係の研究施設等の紹介

(3) その他、国内外の学会や、鍼灸関連の学会の動向等に関する紹介

(4)原則として、1,600字(刷り上がり1頁)以内。刷り上がり1頁以内であれば、図表等も掲載可

#### 5. 会頭講演・特別講演・教育講演・シンポジウム・セミナー

(1)これらは、いずれも学術大会の際に行われた講演やシンポジウムを学会誌に再録するものである。依頼原稿を原則とする。

(2)会頭講演・特別講演・教育講演の執筆要項は次の通りとする。

1)本文・文献は16,000字以内、図表はあわせて8点以内(刷り上り15頁まで無料)とする。

2)論文タイトル・執筆者名・所属は、和英併記のこと。

3)日本語要旨は800字以内、英語要旨は400words以内とする。

4)8個以内のキーワードを日本語と英語で選定すること。

5)他は原著論文に準じる。

(3)シンポジウム・セミナーの執筆要項は次の通りとする。(著者毎ではなく全体での容量を示す。従って、コーディネーターを中心に各シンポジスト間で調整のこと。)

1)本文・文献は15,000字以内、写真・図・表は計8点以内(刷り上り15頁まで無料)とする。

2)シンポジウム・セミナーのタイトル・執筆者名・所属は、和英併記のこと。

3)シンポジウム要旨(司会のまとめ)は日本語1,300字以内、英語800words以内とする。

4)8個以内のキーワードを日本語と英語で選定すること。

5)他は原著論文に準じる。

(4)ただし、会頭講演・特別講演・教育講演・シンポジウム・セミナー等の執筆要項は、学術大会時の発表形式等により変更されることがある。

## VII. 会報

### 1. 理事会・評議員会報告

(1)主に、本部理事会から会員への活動報告

(2)評議員会等の決定事項の報告

### 2. 学会各部活動報告

(1)学会の各部の活動状況の報告

(2)学会員の動態報告

(3)その他

### 3. 支部集会、支部会議

### 4. 関連学会報告

(1)全日本鍼灸学会に関連する学会の開催通知・活動報告等を載せる。

(2)原則として、1,600字(刷り上がり1頁)以内とする。

刷り上がり1頁以内であれば、図表等も掲載可

## VIII. その他

### 1. ワークショップ等の学会として取り組んでいる活動の報告

2. 上記に当てはまらないが、学会誌としてふさわしい原稿

3. 会員が興味を持ち、会員にとって有益な内容、編集委員会が学会誌として必要と考える内容の原稿

(1)学会、理事会、評議員会、会員等に対する意見、要望等

(2)鍼灸界に対する意見、論考、主張等

(3)本文は 1,600 字以内とする。

(4)原則として、図・表は認めない。

4. その他の原稿の投稿に関する詳細は、編集委員会で決定する。

#### IX. 掲載料および図版作製・別刷作製費

1. 掲載が無料である頁数は、論文の区分別の刷り上り頁数で決められている。それを超過した場合は、超過料金を実費で徴収する。また、特殊な図・写真についても点数に関係なく実費を請求する(通常の印刷費以外に費用を必要とする場合を全て含む)。図表は、原則として、そのまま写植して掲載できる見やすいものとする。

2. 別刷は投稿時に 100 部単位で希望数を受け付ける。それぞれの費用は次のように計算する。

(1)頁超過料金:1頁につき 15,000 円。

(2)図版作製費:カラー印刷、トレースまたは修正を要したものは実費を請求する。

(3)別刷作製費:別刷は 100 部単位で作製し、実費を徴収する。

(4)依頼原稿については、100 部を著者に無料で謹呈する。ただし、100 部を越えて希望する場合は実費を徴収する。

(5)詳細は編集委員会に問い合わせること。

#### X. 送付原稿と送付先

原稿は記録メディアに保存された電子ファイルと印刷原稿の両方を提出する。

##### 1. 電子ファイルの作成要領

(1)本文(要旨、参考文献を含む)、図表、図説はそれぞれ個別のファイルで保存する。図表ファイルの提出は、各図表を個別のファイルとする。各ファイルには保存内容の区別が可能なファイル名をつける。

(2)本文(和文要旨、英文要旨、参考文献を含む)と図説は MS-Word またはテキストで保存する。図表はカラー・モノクロともに Power Point への貼り付け保存か、個別に JPEG または PDF 保存されたものとする。

(3)各ファイルは CD、DVD または USB メモリに保存する。記録メディアには論文タイトルと筆頭著者名を記したラベルを貼付する。

(4)ファイルの作成に使用したアプリケーション名とバージョン、また、コンピューターのシステムバージョンなどを記したカバーレターを添付する。

(5)記録メディアが破損しないよう厚紙などで挟んで送付する。

2. 印刷原稿は本文、図説、および全ての図表を3部ずつ(本文2部はコピーでも可、図表はオリジナル3部)送付する。いずれにも文字化けがないことを確認する。

3. 電子ファイルの記録メディアとカバーレター、および印刷原稿を書留便、または宅配便で下記の全日本鍼灸学会事務局宛に送付する。封筒の表には「原稿在中」と朱書すること。原則として送付された記録メディアや印刷原稿、図表などは返却しない。

#### [原稿の送付先]

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-44-14 日本鍼灸会館内

全日本鍼灸学会事務局編集部宛

TEL:03-3985-6188 FAX:03-3985-6135 E-mail : [honbu@jsam.jp](mailto:honbu@jsam.jp)



## 雑誌名略記例

### 1. 日本語雑誌(雑誌名;略記)

医学のあゆみ;医のあゆみ

呼吸と循環;呼吸と循環

最新医学;最新医

耳鼻咽喉科展望;耳鼻展望

自律神経;自律神経

神経眼科;神経眼科

神経研究の進歩;神研の進歩

神経内科;神経内科

臨床神経学;臨神経

診断と治療;診断と治療

整形外科;整形外科

整形外科と災害外科;整外と災外

全日本鍼灸学会雑誌;全日鍼灸会誌

総合リハビリテーション;総合リハ

総合臨床;総合臨

中医臨床;中医臨

中部日本整形外科災害外科学会雑誌;中部整災誌

治療;治療

糖尿病;糖尿病

東洋医学とペインクリニック;東洋医とペインクリニック

東洋療法学校協会学会誌;東洋療学協会誌

日本医事新報;医事新報

日本温泉気候物理医学会雑誌;日温気候物理医学会誌

日本磁気共鳴医学会雑誌;日磁気共鳴医学会誌

日本眼科学会雑誌;日眼会誌

日本整形外科学会雑誌;日整外会誌

日本生理学雑誌;日生理誌

日本東洋医学雑誌;日東洋医誌

日本内科学会雑誌;日内会誌

日本泌尿器科学会雑誌;日泌会誌

日本皮膚科学会雑誌;日皮会誌

日本良導絡自律神経学会雑誌;日良導絡自律神経学会誌

日本臨床;日臨

日本レーザー医学会誌;日レーザー医学会誌

脳神経外科;脳神外科

Biomedical Thermology;Biomed Thermol

皮膚科の臨床;皮の臨

ペインクリニック;ペインクリニック

臨床眼科;臨眼  
臨床針灸;臨針灸  
臨床スポーツ医学;臨スポーツ医  
臨床整形外科;臨整外  
臨床評価;臨評価  
臨床薬理;臨薬理  
和漢医薬学雑誌;和漢医薬誌

## 2. 英語雑誌(雑誌名;略記)

Acta Dermato-Venereologica;Acta Derm Venereol  
Acta Physiologica Scandinavica;Acta Physiol Scand  
Acupuncture & Electro-therapeutic Research;Acupunct Electrother Res  
Acupuncture in Medicine;Acupunct Med  
American Journal of Acupuncture;Am J Acupunct  
American Journal of Chinese Medicine;Am J Chin Med  
American Journal of Obstetrics and Gynecology;Am J Obstet Gynecol  
American Journal of Physiology;Am J Physiol  
Autonomic Neuroscience: Basic and Clinical ; Auton Neurosci  
Biometrics;Biometrics  
Brain Research Bulletin;Brain Res Bull  
Brain Research;Brain Res  
Brain;Brain  
British Medical Journal;BMJ  
Circulation Research;Circ Res  
Circulation;Circulation  
Complementary Therapies in Medicine;Complement Ther Med  
Experimental Neurology;Exp Neurol  
Immunology Today;Immunol Today  
International Journal of Epidemiology;Int J Epidemiol  
Journal of Alternative and Complementary Medicine;J Altern Complement Med  
Journal of Applied Behavior Analysis;J Appl Behav Anal  
Journal of Clinical Epidemiology;J Clin Epidemiol  
Journal of Immunology;J Immunol  
Journal of Neurology, Neurosurgery and Psychiatry;JNeurol Neurosurg Psychiatry  
Journal of Neurophysiology;J Neurophysiol  
Journal of Neurosurgery;J Neurosurg  
Journal of the Autonomic Nervous System;J Auton Nerv Syst  
Journal of the Neurological Sciences;J Neurol Sci  
Journal of Traditional Chinese Medicine;J Tradit Chin Med  
Lancet;Lancet

Medical Science in Sports Exercise; Med Sci Sports Exerc  
Nature; Nature  
Neuropharmacology; Neuropharmacology  
Neuroscience Letter; Neurosci Lett  
Neuroscience Research; Neurosci Res  
Neuroscience; Neuroscience  
Obstetrics and Gynecology; Obstet Gynecol  
Pain; Pain  
Physical Reviews; Phys Rev  
Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America; Proc Natl Acad Sci USA,  
Science; Science  
Spine; Spine  
Statistics in Medicine; Stat Med  
The Journal of Biological Chemistry; J Biol Chem  
The Journal of Bone and Joint Surgery. American volume; J Bone Joint Surg Am  
The Journal of Clinical Investigation; J Clin Invest  
The Journal of Comparative Neurology; J Comp Neurol  
The Journal of Physiology; J Physiol  
The Journal of the American Medical Association; JAMA  
The New England Journal of Medicine; N Eng J Med